

教科等横断的な視点を取り入れた授業実践

外国語活動

第3学年

《教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成》

○ 学習の基盤となる資質・能力の育成について

・ 言語能力の育成

本実践では、相手を知るために重要である好みを聞いたり伝えたりする表現を学んでいく。英語を用いた活動を織り交ぜながらのスモールステップで、英語と日本語の意味を結び付けるような学習を進めることで、好みを表す表現に慣れ親しませることができる。十分に慣れ親しんだ表現を使って、自分の気持ちを言葉にして伝えるとともに、自分と異なる意見や考えがあることに気付き、他者を尊重できるようにする。

・ 情報活用能力の育成

本実践では、外国語活動の学習後、総合的な学習の時間で外国について調べ、文化や習慣の相違点等を新聞にまとめる学習を行った。インターネットを使った場合、情報量が多く、必要な情報の取捨選択が十分にできる段階ではないため、事前に学校司書に依頼し、外国に関する本を収集してもらい、それらを主な情報源とし、それ以上に調べたいことがある児童はインターネットで調べるようにした。これにより、調べる内容が絞られるため、中学年の児童でも、インターネットを用いて欲しい情報を得ることが可能になった。これらの情報を活用し、外国語活動での日本語と英語の違いへの気付きをもとに新聞を作成することを通して、情報手段を適切に用いて情報を得たり、得られた情報を分かりやすく発信したりできるようにする。

1 単元名 「 I like blue. 」

2 単元の目標

- 多様な考え方があることや、音声やリズムについて外来語を通して日本語と英語の違いに気付き、色の言い方や、好みを表したり好きかどうかを尋ねたりする表現に慣れ親しむ。

〈知識及び技能〉

- 友達ともっと仲良くなるために、相手に伝わるように工夫しながら、自分の好みを紹介する。

〈思考力、判断力、表現力等〉〈学びに向かう力、人間性等〉

3 教科等横断的な視点を取り入れた授業実践について

(1) 単元で育てたい力

- 多様な考え方があることや、音声やリズムについて外来語を通して日本語と英語の違いに気付き、相手に伝わるように工夫しながら、自分の好みを紹介する。

【外国語活動：言語能力】

(2) 教科等横断的な視点に立った育てたい力

○自分の気持ちを言葉にして伝えるとともに、自分と異なる意見や考えがあることに気づき、他者を尊重しようとする。

【外国語活動：言語能力】

(3) 共通の育てたい力

○外国について調べ、文化や習慣の相違点を新聞にまとめる学習を通して、情報手段を適切に用いて情報を得たり、得られた情報を分かりやすく発信したりする。

【共通：情報活用能力】

(4) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<知識> ①日本語と英語の音声やリズムの違いに気付いている。 <技能> ②好きな色などについて、簡単な語句や基本的な表現を聞くことに慣れ親しんでいる。		
話すこと（発表）	<知識> ①多様な考え方があることや、日本語と英語の音声やリズムの違いに気付いている。 <技能> ②好きな色などについて、簡単な語句や基本的な表現を使って、自分の気持ちを話すことに慣れ親しんでいる。	①友達ともっと仲良くなるために、相手に伝わるように工夫しながら、自分の好みを話している。	②友達ともっと仲良くなるために、相手に伝わるように工夫しながら、自分の好みを話そうとしている。

4 指導計画

時	学習活動 ★教科等横断的な学習活動	備考 ★教科等横断的な学習 ◎記録に残す評価 □学習状況の確認

1	○フラッシュカードを用いて、単元で使う言語材料を知り、発音する。 Today's Goal 色の言い方を知ろう ○虹に色を塗り、全体で共有させ、人によって捉え方が違うことに気付く。 ★映像を視聴し、世界の子供たちの描く虹の違いに気付く。 【見いだす】	□知識・技能 【行動分析・発言分析】 ・多様な考え方があることや、日本語と英語の音声やリズムの違いに気付いている。 ・色を表す簡単な語句に慣れ親しんでいる。 ★国によって虹の色の塗り方に違いがあることに気付き、多様な考え方があることに気付いている。【言語能力・情報活用能力】
2	Today's Goal すき・きらいの言い方をたくさん言おう ○好き嫌いの言い方を知り、チャンツのリズムに合わせてながら発音する。 ○音声を聞き、それぞれの登場人物の好きなものや嫌いなものを選ぶ。 ○フラッシュカードを用いてステレオゲームをする。 【自分で取り組む】	□知識・技能 【行動分析・発言分析】 ・好き嫌いを表す基本的な表現に慣れ親しんでいる。
3	Today's Goal すききらいを聞いたり、答えたりしよう ○フラッシュカードを用いて、好きかどうか質問する表現を繰り返し発音する。 ○会話を聞いたり、映像を見たりして、登場人物の好きなものを選ぶ。 ○友達の好き嫌いを予想し、合っているかインタビューをして確かめる。 【自分で取り組む】	◎知識・技能 聞くこと①【記述分析】 ・日本語と英語の音声やリズムの違いに気付いている。 ・好きな色などについて、簡単な語句や基本的な表現を聞くことに慣れ親しんでいる。 □思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度【行動分析・発言分析】 ・相手に配慮しながら、友達に質問したり、質問に答えたりしている。

4	Today's Goal 自分の好きなものを入れた自己紹介 かいをしよう ★自分の好きなものを入れた自己紹介を考え、相手に 伝えるように工夫しながら、発表する。 【広げ深める】 【まとめあげる】	◎知識・技能 話すこと（発表）①②【発言分析】 ・多様な考え方があることや、日本語と英語の音声やリズムの違いに気付いている。 ・好きな色などについて、簡単な語句や基本的な表現を使って、自分の気持ちを話すことに慣れ親しんでいる。 ◎思考・判断・表現 話すこと（発表）①【行動分析・発言分析】 ・友達ともっと仲良くなるために、相手に伝えるように工夫しながら、自分の好みを紹介している。 ◎主体的に学習に取り組む態度 話すこと（発表）①【行動分析・発言分析】 ・友達ともっと仲良くなるために、相手に伝えるように工夫しながら、自分の好みを紹介しようとしている。 ★相手に伝えるように工夫しながら、自分の気持ちを話している。【言語能力】
	世界の友達を知ろう ★本やインターネットを参考に外国について調べ、 新聞にまとめる。 【総合的な学習の時間】	★本やインターネットから情報を得て、得られた情報を分かりやすく発信している。【情報活用能力】

5 実践

（１）目指す児童の姿

ア 言語能力の育成（第３・４時）

（ア）児童を見取る際の主なポイント

外国語活動の聞くことの目標では、「ゆっくりはっきりと話された際に」と明示されているため、Let's Try!の音声だけでは聞き取れない児童のために、ALTにスピードを調節して発音してもらうことで児童の理解を助けることができるようにした。それと同時にどの段階で児童が理解

できたかを見取することで評価に役立てることができる。

第4時の発表では、自分の紹介したいものに合わせて絵や写真等を見せながら発表させることで、自分の気持ちを話せるようにするとともに、相手に配慮しながら話せるようにした。

(イ) 指導と評価の実際

①第3・4時の授業の概要

音声を聞く問題として Let's Listen①と②を扱う。それぞれ自己紹介をしているが、①は“I like ～.”のみを入れて話しており、②では“I like ～.”“I don't like ～.”の両方が入っている。導入時に第1時で学習した色を用いて、好き嫌いの言い方を十分慣れ親しませてから問題に取り組ませた。



I like ～. / I don't like ～. を使って
好き嫌いを尋ねるときに一緒に提示
し、イメージを掴みやすくした。

また Let's Listen①の後、フラッシュカードを用いて3・4名の児童に配られたカードの色が好きか嫌いかを一斉に発音するステレオゲームを行い、好きなものと嫌いなものの言い方に違いがあることを掴ませてから Let's Listen②を行うようにした。

基本的な表現に十分に慣れ親しませた後に、自分の紹介したいものに合わせた絵や写真などを使って、紹介カードを作成させた。作成したカードを見せながら、声の大きさや表情、ジェスチャーを加えるなど、相手に伝わるように工夫しながら自分の好きなものについて発表させた。

②実際の児童の姿

・聞くこと

- 「おおむね満足できる」状況と評価した

例

Let's Try!の音声やA L Tの発音を正しく聞き取り、問題に答えている。

- 「十分満足できる」状況と評価した例

Let's Try!の音声を正しく聞き取り、問題に答えている。

- 「努力を要する」状況と評価した例

Let's Try!の音声とA L Tの発音の後、日本語でのヒントを聞き、問題に答えている。

・話すこと（発表）

- 「おおむね満足できる」状況と評価した例

絵や写真などを見せ、相手に伝わるように工夫しながら自分の気持ちを話している。

- 「十分満足できる」状況と評価した例

絵や写真などを効果的に活用し、発表の仕方を含め、相手に伝わるように工夫しながら自分の気持ちを話している。

- 「努力を要する」状況と評価した例

サポートを受けながら、自分の気持ちを話している。

イ 情報活用能力（第1時・総合的な学習の時間）

（ア）児童を見取る際の主なポイント

まず外国語活動の第1時で、虹の色の表現が友達によって違うように、国によっても異なることへの気付きを評価する。具体的には、児童のつぶやきや振り返りカードで評価していくが、違いがあってもよいということは全体で共有する必要がある。そうすることで、単元終末の言語活動を行う際の不安感も和らげることができると思う。

次に、総合的な学習の時間では、調べる活動を通して、目的にあった情報を選択したり、集めたり、処理したりすることができているか、異文化を理解し、異なる文化をもった人々と共に生きていこうとする姿勢をもとうとしているかを評価する。具体的には、情報収集の方法と毎時間のワークシートの進捗状況、さらに調べた内容を基にまとめた新聞で評価していく。

（イ）指導と評価の実際

①第1時・総合的な学習の時間の授業の概要

英語での色の表現を知り、色についての興味をもたせた状態で、まず虹に自分なりの色を付け、友達と共有する活動を通して、自分とは異なる表現をする人がいることを体験させる。お互いに見せた虹を見せ合ったり、全体の前で発表させたりする活動から児童のつぶやきを拾ったり、問いかけたりすることで、人と違うことが間違いではないことを共有した。その上で、外国に住む子供たちの描いた虹を見せ、挨拶やジェスチャーのように虹の表現も国によっても違いがあることに気付かせるようにした。

外国語活動振り返りカード				
① 月 日				
Unit5 何が好き？ What do you like?	よくできた	まあまあ できた	あまり できなかった	できなかった
えい語であいさつをしたり、歌を歌ったりしましたか。				
食べ物やスポーツをえい語で言いましたか。				
日本語とえい語のにているところや、ちがうところに気づきましたか。				
今日の学習でわかったことや気がついたことを書きましょう。				

振り返りカードで児童の気付きを評価していく。

その後、総合的な学習の時間の学習では、外国語活動で学習した内容の挨拶・国旗・国の場所については、全員が調べることにし、それ以外に二～三つの内容について本やインターネットを使って調べるようにした。また、本については、学校司書に依頼し、個人で1冊ずつ調べられるよう、外国の本を30冊程度用意した。

[illegible]



ロシアの学校と日本の学校との相違点が伝わる内容を記載している。

②実際の児童の姿

○ 「おおむね満足できる」状況と評価した例

本やインターネットを使い、自分の選んだ国について調べた内容を、新聞にまとめることができた。

○ 「十分に満足できる」状況と評価した例

本やインターネットを使い、自分の選んだ国と日本との相違点が伝わる内容で新聞にまとめることができた。

○ 「努力を要する」状況と評価した例

自分の選んだ国について調べ、友達と協力して新聞にまとめることができた。

(2) 実践を終えて

1 学習の基盤となる資質・能力育成について

児童の学習に対する意欲が高く、チャンツや繰り返しの発音も楽しみながら取り組むことができていた。学習内容に沿って、ALTと連携を図り、児童が楽しみながら英語表現を聞いたり、話したりする活動を取り入れながら学習を進めることで、効果的に英語表現へ慣れ親しませることが可能となる。これらのことから、単元の終末では、児童一人一人が好みを表す英語表現を使って自分の気持ちを話すことができていた。しかし、今回学習した英語表現も使ったり、耳にしたりしないままでは、忘れてしまう児童もいると考えられる。そのため、Small Talk や他のUnitの活動の中で意図的に使う場面を設けることで定着させたい。また、違いを認めることや相手への配慮などの他者を尊重する態度についても、今後も引き続き指導・支援し育成を図りたい。

情報活用能力については、インターネットだけでの調べ学習となると、情報量が多すぎて、選ぶだけでも時間がかかってしまうため、本も併せて活用することで、インターネットを用いた際の調べたい内容を絞ることが可能となった。自分の調べたい内容のキーワードが焦点化されやすく、検索の時間も短縮することができた。しかし、未習の漢字等も多くあるため、ふりがなを付けられる機能を活用することで、より効率よく学習を進められるようにしたい。

2 教科等横断的な視点に立った評価について

この実践を通して、児童は意欲的に外国語活動に取り組み、外国への関心が広がったように感じている。外国語活動で紹介される国には限りがあり、今回の学習で初めて知った国がある児童もいたようだ。自分の選んだ国の場所や挨拶・国旗等を調べていく中で、世界地図に興味をもったり、国旗の色について友達と話していたりする様子も見られ、外国の文化について知るには効果的であったと考える。特に、外国語教育のスタートの学年で行うことで、児童はより興味をもって取り組むことができたのではないかと考える。新聞にまとめることで、成果物としてお互いの知識を広げることにもつながり、同時に評価もすることができた。